

## 雑記3題(富士山の話題他)

JJ1SXA/池

### 富士山の話題

山頂の標高が 3,776 メートルと日本で最も高い山である富士山、遠くから富士山の姿を見ると、その頂上は平らに見えるのではないのでしょうか。

しかし、実は富士山の山頂には、直径 780 メートルの噴火口を取り囲むように 9 つもの「峰」と呼ばれる小高い場所があります、名前を挙げると、朝日岳、浅間岳、伊豆ヶ岳、久須志岳、駒ヶ岳、成就岳、白山岳、三島岳と剣ヶ峰の 9 つ、そのうち、最も高い剣ヶ峰の頂上が、富士山の山頂とされています。

ちなみに、富士山頂をぐるりと一周することを「お鉢巡り」と呼ぶそうで、1 周するには 2 時間ほどかかるのだとか、日本一の高さを誇る富士山は、山頂部の大きさもケタ違い。

国土の 3 分の 2 が山地である日本、国土地理院が発行している 2.5 万分図に記載されている国内の山の数はなんと 16,667 にも及びます、掲載されていない山もあるので、実際にはもっと沢山の山があるということになります。

### 240 での酒豪ランキング

TWO-FORTY 誌第 50 号(2001 年 7 月発行)に「酒無くて何が己が人生ぞ」という記事を掲載した、詩人・若山牧水の言葉を貰って表題とした。

放浪の画家・山下清は「兵隊の位で言えば」という言葉を使っていたが、240 の中で、酒飲みランキングの私の立ち位置を「兵隊の位で言えば」、その昔は、大将まではいかないが、中將くらいだったようだが、今は只の一兵卒、二等兵だな。

ちなみに、昔の軍隊の階級は、トップは、大将、以下、中將、少將、大佐、中佐、少佐となるが、現自衛隊では、逆順で行くと、三佐、二佐、一佐、將補、將、で、大将、中將に該当するのは、將だ、下の方から昇順でいけば、二等兵、一等兵、上等兵、そしてここから上は下士官となり、伍長、軍曹、曹長、その上は、士官で少尉、中尉、大尉で次が少佐だ。

私の幼少の頃の人気漫画「のらくろ」(作者は、田河水泡)、「のらくろ二等兵…のらくろの黒吉」が軍隊に入隊し、失敗を重ねながらも順次出世して階級が上がるが、そこで、未就学の軍国少年だった私は兵隊の階級を覚えたのだ、「のらくろ」は最終的には大尉まで昇進した。

240 での酒豪ランキング、現在の大将は「D△U」局かなと思うが、下戸も結構多い、「V△B」「L△T」局あたりが双璧かな？

過去の酒豪ランキング大将は、JM1RR△局だ、北海道出身の、大部屋俳優だが、酒は本当に強かった、俳優としては、「人間の条件」で、セリフも少しあった水島一等兵役で出演していた。

### 二宮金次郎

「二宮金次郎」は、江戸後期の農政家「二宮尊徳」の幼名だ、努力の末、没落した家を再興し「勤勉」の象徴として子供たちのお手本にされ、私が幼少の頃は、何処の小学校でも校庭に、

薪を背負い、読書をしながら歩いている像があった。

「勤勉」の象徴だが、戦後は、「忠孝」の側面が強調されたこともあって、「軍国主義」と重ねられて疎まれた時期もあった、

しかし、その業績、精神が見直されてきたのだが、没後 150 年にもなって、象徴的な「像」に変化が現れた、本を読みながら歩く姿から、木の切り株に腰を下ろして読書をしているのだ、理由は、何と、「歩きスマホ」を助長させるのでは無いかというのが原因だ、

スマホに気を取られ、他人とぶつかる、駅のホームから転落する、そんな事故が後を絶たない、今や、小学生もスマホを持つ時代になった、「二宮尊徳」にも歩きスマホは止めてもらうお手本になってもらおうということだ、ただ、私の場合、幼少の頃にインプットされた、二宮金次郎像が座って居るのは、違和感がある。

二宮金次郎が唱えた「報徳思想」は、その生涯の生活と体験を通じて社会道德の規範を考え、人間として社会生活を行うための行動の基本となるものをつくり、自ら実践し、それをそのまま雛形として後世に伝えられたものとのこと、その特色とするところは、生活信条となる道德、即ち生活やモラル等一般的な道德活動と経済活動は、別々なものであってはならないとされている。

「道德なき経済は犯罪であり、経済なき道德は寝言である」という名言を残している。

